総選挙と政治家

総選挙から 2 週間。全閣僚が再任され「第 4 次」安倍内閣が発足した。総選挙で何が変わったのか。自民党が大勝し、自公は選挙前と同じく 3 分の 2 の議席を占める。与党に比べて、野党の勢力図は激変した。とりわけ解散の日に、民進党「解党騒動」により、立憲民主党、希望の党など 4 分裂した。野党共闘を推進してきた共産党は、議席を大幅に減らした。

選挙前から今回まで、10 本のレポートを書いてきた。写真はレポートで使った朝日新聞などである。ただし希望の党に移った細野「映像写真」は、フェイスブックに投稿されたもの。

日本経済新聞 10 月 30 日朝刊「池上彰の大岡山通信　若者たちへ」。自らが担当したテレビ東京「池上彰の総選挙ライブ」の番組最後で、次のように総括したと述べている。

「今回の選挙は、特に野党が離合集散する過程で、ひとりひとりの政治家の資質、さらには人としての生き方が問われました。また、選挙戦では異なる意見を持つ人を排除する動きが目立ちました。演説会での小競り合いもたびたび目撃しました。社会から寛容さが失われていくことは、日本の将来を考えていく上で、大変気がかりなことです。

ただ、今回、政治勢力が憲法観をめぐって三極に分かれたことは、有権者にとってわかりやすい構図になったともいえます。これにより、多くの有権者が政治に関心をもつきっかけになればと思います。明日の日本を支えるのは、有権者である私たちなのですから」

池上も述べているように、今回の選挙を通じて「政治家の資質、さらには人としての生き方」に注目した。安倍晋三を筆頭に、前原・小池、さらには細野などの顔を思い浮かべる。政治家である前に、まずは「人間性」こそが問われなくてはならない。

（2017 年 11 月 5 日）